

震災体験を風化させな

10月6日、住民2千人が防災訓練

3年前、鳥取県西部地震が発生した10月6日を「日野町防災の日」と位置づけ、今年も全町一斉防災訓練を町内全域で行いました。今年も、平日の昼間に地震が発生した場合を想定。住民2千人が参加し、防災意識の高揚を図りました。

大地震を忘れない

いざという時に備え

鳥取県西部地震が発生した日を「日野町防災の日」と位置づけ、10月6日、全町一斉防災訓練を行いました。

訓練は「午前9時、鳥取県西部を震源とする地震が発生し、日野町で震度6を記録」という想定。サイレンと防災無線の合図で訓練が始まると、住民2千人は、避難経路を確認しながら仮避難所に避難し、

点呼、安否確認をしました。

また「根根3区の町公舎で火災が発生」という想定で、西部広域消防と町消防団が連携して消火訓練を行い、お互いの体制強化を図りました。

今年も平日の昼間に地震が発生した場合、高齢者単独世帯など災害弱者の誘導や避難活動が地域や施設でいかにすばやく行えるか、また、町と各団体との連携体制の強化を訓練課題としました。

参加した住民は「日ごろの

訓練や備えが大切。3年前に起きた大地震の体験を忘れず地域の防災意識を高めていきたい」と訓練を振り返っていました。

自主防災組織を編成

体制の強化 黒坂

黒坂地区では、昨年から組織された「黒坂地区自主防災委員会」（福田和也会長）が、全町一斉防災訓練にあわせ、電気・水道・電話不通、国道



黒坂地区自主防災委員会
福田和也会長

組織2年目、連絡体制もスムーズに

自主防災組織も今年で2年目。昨年と比べ連絡体制もスムーズに行われ、ケガ人の状況など報告内容も充実してきました。組織ができたことにより、地域の防災力も高まりましたが、お互いが助け合う「きずな」も強くなりました。

震災から3年が過ぎ、住民の記憶が薄れつつありますが、大地震の経験を風化させず、訓練を重ねていきたいです。

180号線の一部が通行不能という独自の想定で訓練を行い、住民348人（地区住民の3割強）が参加しました。

車場に本部を設置し、避難誘導、安否確認、救出救護、情報連絡等の訓練を行いました。また、日本赤十字日野町奉仕団が200食の炊き出し訓



防災